

学校だより

東泉丘

令和6年(2024年)春休み号
全児童数 622人(1/30現在)
豊中市立 東泉丘 小学校
校長 河上 洋介



来年度に向けて

本日、今年度の締めくくりとなる修了式を行いました。保護者の皆様には、この1年間、たくさんのご協力をいただき、お力添えいただいたことにつきまして、改めてお礼申しあげます。本日、お子様が持ち帰った「のびゆくこども」をご覧になり、この1年間の成長をお子様とともに喜び、お子様の成長を認め励ましてくださいますようお願いいたします。

子どもたちは、4月から学年が1つ上がり、新しい先生、新しい友だちと、新しい一歩を踏み出します。学校だより3月号でお知らせしたとおり、来年度も、学校では、目指す子ども像「伝え合い 認め合い 高め合い 3つの合い(愛)」の実現にむけて、子ども達を認め励ますことを大切にしながら教育活動を進めます。また、学校教育自己診断のアンケートの分析から、お互いを認め合えるクラスづくり、集団づくり、子ども同士をつなげる取組みが今後の教育活動の大きなポイントであると考えています。

修了式では、来年度に向けて、今年度をふりかえって、子どもたちに考えてほしいことについて話をしました。あってはならないことですが、東泉丘小学校でも起こってしまったいじめについての話でした。内容を紹介します。

校長先生は、この1年間、始業式や全校朝会で、東泉丘小学校の目標である「伝え合い 認め合い 高め合い 3つの合い(愛)」について、みなさんに考えてほしいことや、がんばってほしいことについてお話をしてきました。さて、1年間をふりかえってみて、どうでしょうか。自分でがんばれたな、よくやったな、と思うことがたくさん思い浮かんでくると思います。それから、友達ががんばっていたこともあったでしょう。がんばった自分や友達に拍手をしてあげてほしいと思います。そして、うまくいったこと、がんばれたことは、4月からも、ぜひ続けていってください。

でも、2度とあってほしくない、と思うことも、この1年間にはありました。それは、いじめです。今日は、みなさんに、いじめについて考えてもらいたいと思っています。



いじめのきっかけは、その子の気になる行動や様子でした。去年の6月の全校朝会で、校長先生が「あかいほっぺた」という絵本を読んだのを覚えていますか。トムという男の子のほっぺたが赤くなるのがきっかけで、いじめが始まったお話でした。みんなからみて気になることは、その子自身が一番、きっとそのことで困っているかもしれません。直したいと思っているかもしれません。そして、その気になる行動や様子は、その子が大きくなって、いつか、なくなっていくこともあります。でも、今は、自分でも困っているけど、どうにもできないこともあるでしょう。だから、周りの子どもや大人の助けがいることもあ

るでしょう。

だから、気になる行動や様子があったときに、注意をして、気づかせてあげることがあっていいですし、先生に相談することがあってもいいです。それから、気になるけど、いやだな、困ったなと思うけれど、「大丈夫だよ。」「いいよ。」とがまんしてくれたこともあると思います。がまんしてくれてありがとうと思っています。

でも、避けたり、冷たくしたり、からかったり、否定したり、攻撃したり、だめだと決めつけてレッテルをはって、その子のよさを見ようとしなかったりすることはよくないと思っています。その子が嫌いになってもいいけど、だからといって、「嫌いだ。」と、言葉に出して言うてしまうこともどうでしょう。態度に表してしまうことはどうでしょう。ましてや、いじめるのはもってのほかです。

いじめは、絶対にしてはいけないこと。気になる行動や様子があればいじめていいことにはなりません。嫌いだったらいじめていいということにはなりません。

校長先生からの願いは、いじめをなくすためにできることを、みなさん一人一人が考えてほしいということです。去年の7月の全校朝会で校長先生が読んだ「わたしがいじわるオオカミになった日」という絵本を覚えていますか。この絵本の主人公のエマは、自分がいじめられるのがいやで、いじめる側に回ってしまいました。いじめられることのつらさやしんどさが分かっていたエマでもそうなのだから、誰にだって、いじめをしてしまうことがあるかもしれません。自分は大丈夫、関係ない、ではなく、一人一人が自分のこととして、考えてほしいです。



長くなりましたが、これで、校長先生からのお話を終わります。来年から、みなさんは一つずつ学年があがります。新しい先生や新しい友達との出会い、新しい学習、新しい教科、新しいことがたくさんです。新しい一歩を、しっかりと踏み出してください。

学校日より夏休み号で、「あかいほっぺた」を訳した野坂悦子さんの解説を紹介しました。再掲します。「こわくて、いじめを止めに入れられないという気持ちは、どの国でも同じ。呪いのように人を縛り、簡単には解けないものだ」と強く感じました。しかしこの本の主人公は、とうとうある日、いじめを止めようと、教室で手をあげます。絵の背景は目がくらむほど強烈な「赤」。心臓が破裂しそうな緊張、恐怖、迷い、でも私がやらなくちゃ、という決意がすべてこめられています。(中略) 大切なのは、いじめの傍観者である自分に気がつくこと。呪縛を破り、一歩まえへ踏み出すための小さな勇気を持つこと。」

この機会に、ご家庭でもいじめについてお子様と語り合う時間を持っていただければありがたいです。学校では、何かあったときに相談しやすい環境づくりや、子どもたちの様子、行動や表情をよく観察して普段と違う様子に気づくこと等、いじめの未然防止に向けた取り組みを進めます。ご理解、ご協力くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、この1年間の学校教育活動へのご協力につきまして、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。